

やまだ
山田地区

霧島連山の南東に位置し、丸谷川や木之川内川など多くの川が流れる山田地区には、今から1万3千年前から人が住んでいたと考えられています。都城盆地内でも、より古い時代の人々の生活の跡が残されている地域の一つです。

①中村遺跡 (中村) 縄文 柱

道路を広くする工事の時に発掘調査を行いました。今から、3千年くらい前の縄文時代の家の跡が2軒見つかりました。遺跡からは煮炊きをする縄文土器や石のやじりや斧などの道具も見つかっています。



中村遺跡発掘調査の様子



縄文時代の土器



中村遺跡周辺地図

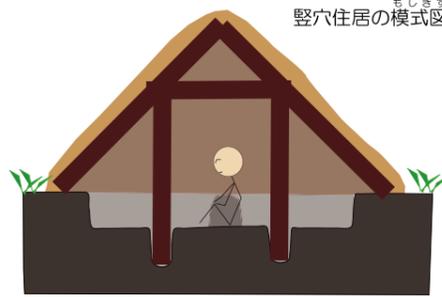


磨石 (上の丸い石) と石皿 (下の石) ドングリなどを磨りつぶす道具

②中牟田遺跡 (西楸) 縄文 弥生 中世 柱

平成2年(1990)に山田総合福祉センター(けねじゅ苑)をつくる時に発掘調査を行いました。縄文時代や弥生時代、中世の遺跡です。中牟田遺跡の弥生時代の家の跡は、南九州に多く見られる間仕切りのあるものでした。

【弥生時代の家】
地面に大きな穴を掘り、さらに柱の穴を掘った竪穴住居。古代まで一般の人が住んでいた家の形。上から見た形は丸や四角が多いが、弥生時代の南九州では花びらの形など、間仕切りのある家が多くつくられた。



竪穴住居の模式図



中牟田遺跡周辺地図



中世のお皿(素焼き)



弥生時代の竪穴住居跡

③山田城跡 (西楸・脇之馬場) 中世 P32 柱 駐

山田城は、現在の山田総合支所や山田小学校を含むとても広い範囲につくられました。室町時代に、相良定頼が築いたといわれています。戦国期には様々な武将が城主となり、最後は北郷氏(現在の都城島津家)の居城となりました。元和元年(1615)に出された一国一城令によって廃城となりました。



山田城跡航空写真(昭和 22年米軍撮影)

【そのほかの遺跡と史跡】

- 縄文時代: 虎崩遺跡・前田第1遺跡
- 弥生時代: 長尾下第1遺跡・大堀第2遺跡
- 近世: 大古川かくれ念仏洞・平山かくれ念仏洞



④池増遺跡 (山田町古江) 縄文 P5

ボラ土を取る工事の時に発掘調査を行いました。今から、1万3千年くらい前から、山田地区で人々が生活していたことがわかりました。



細石刃と細石刃核

細石刃核から割り取られたのが細石刃。木の柄にたくさんはめ込んで使用する。(P20に使用想定図あり)

⑤薩摩迫館跡 (山田町古江) 中世 P23 柱 馬

薩摩迫館跡は、室町時代、将軍からこのあたりの土地をもらったといわれている島津資忠が都城を治める拠点として築いた館です。資忠は地名をとって「北郷資忠」と名乗るようになります。館跡からは当時のお茶碗などの、生活道具が見つかっています。



青磁(中国でつくられたお茶碗)



現在の様子(大手口)